

# 壁の向こうへ、

beyond the invisible wall

郡裕美展

Yumi Kori+LSDL

株式会社スタジオ宙

東京本社

東京都武蔵野市吉祥寺本町 1-27-3-701

大阪事務所

大阪府大阪市北区豊崎5-7-11

アベニュー中津404号

tel 06-6131-6768

myu@studio-myu.com

## 郡裕美展 Yumi Kori + LSDL

「壁の向こうへ、」 beyond the invisible wall

### ステートメント

昨年より続くパンデミック下、「ステイホーム」や「ソーシャルディスタンス」が推奨され、他人とのコミュニケーションを絶つ生活が続いています。そんな「新しい生活様式」の中で、人々は自分の部屋に閉じこもり、世界とのリアルな繋がりが希薄になっています。でもこのコロナ禍、私たちが感じている閉塞感は物理的な壁のせいではなく、自分や社会が作る「見えない境界」に閉じ込められている感覚のような気がします。今回の展覧会では、そんな見えない「境界」について再考し、閉塞感の中にまどろんでいる私たちの身体が覚醒することを企てました。壁はそこに本当に存在するのだろうか？突き当たりだと思っている先に、本当は隠れた広がりがあるのではないだろうか？非常事態宣言が解除された今、この展覧会が、各々の「見えない壁」を越えるきっかけになることを祈願します。

2021年7月3日 郡裕美

建築家であり美術家である郡裕美(こおりゆみ)が、光や音、ミニマルな建築的な要素を用いて日本橋の家ギャラリーの空間を変容させます。郡は、1997年より建築設計と平行して空間アートを作り始め、ニューヨーク、ベルリン、東京、サンパウロ、バーゼルなど、世界各地でインスタレーション作品を発表してきました。彼女の作品は、観客がその中に入って自由に歩き回り、五感を通じてそこに現れた新しい空間を体感する新しいタイプの作品です。当たり前だと思っている空間がインスタレーションにより全く違って見え、日常空間に潜む隠れた空間層を発見することによって、人々の世界に対する固定概念を一蹴することを企てます。今回は、新作3点と空間に合わせて再構成した旧作4点の展示をします。

LDSLは、郡が現在教鞭をとる大阪工業大学 ロボティクス&Dデザイン工学部 空間デザイン学科 郡裕美研究室名、居住空間デザイン研究室 Living Space Design Laboratory の頭文字をとったものです。今回の展覧会の開催前、研究室有志が研究活動の一環として様々な空間実験を重ねました。その中で二つの学生ユニットが生まれ、その作品も展示します。また、会場デザイン、設営もLDSLが行いました。会期中にレクチャー、ワークショップも開催予定です。是非、ご参加ください。

また、今回の展覧会は、たくさんの方々のご協力のもとに実現しました。心から感謝、申し上げます。

主催：金森秀治郎(日本橋の家オーナー)

制作：スタジオ宙 一級建築士事務所

協力：株式会社越智工務店／小山電業株式会社／大昭和紙工産業株式会社

協賛：総合資格学院／DNライティング株式会社／株式会社菱晃／株式会社中川ケミカル

# 郡裕美展

Yumi Kori + LSDL

## 壁の向こうへ、

beyond the invisible wall

## 展覧会概要：郡裕美展 Yumi Kori+LSDL

- ・開催日程：7月3日～8月1日の土日  
(それ以外の時間は要予約)  
追加開催：9月4日～9月25日の土日
- ・開廊時間：15～18 PM 入場無料
- ・会場：ギャラリー日本橋の家 (大阪市 中央区 日本橋 2-5-15)
- ・レクチャー、ワークショップ 詳細・申し込みは <https://kori.peatix.com>
- ・予約/問い合わせ：スタジオ宙  
<https://www.studio-myu.com> my@studio-myu.com tel 06-6131-6768
- ・主催：金森秀治郎 (日本橋の家オーナー)
- ・制作：スタジオ宙 一級建築士事務所
- ・協力：株式会社越智工務店 / 小山電業株式会社
- ・協賛：DN ライティング株式会社 / 大昭和紙工産業株式会社 / 株式会社菱晃 /  
株式会社中川ケミカル / 総合資格学院 /

## 作品リスト

### ●郡裕美作品

- 0 壁の向こうへ、
- 1 微睡
- 2 壁の向こうへ、
- 3 utatane
- 4 Infinity Box Green
- 5 Matsukaze
- 6 Can you see? 見える?
- 7 見えない壁
- 8 聞こえる?

### ●LSDL空間実験作品

- 9 実験の軌跡
- 10 残光
- 11 夢のあとさき

●全体外観作品：壁の向こうへ、

ライトインスタレーション: 郡 裕美

マテリアル：LED、紙、カッティングシート

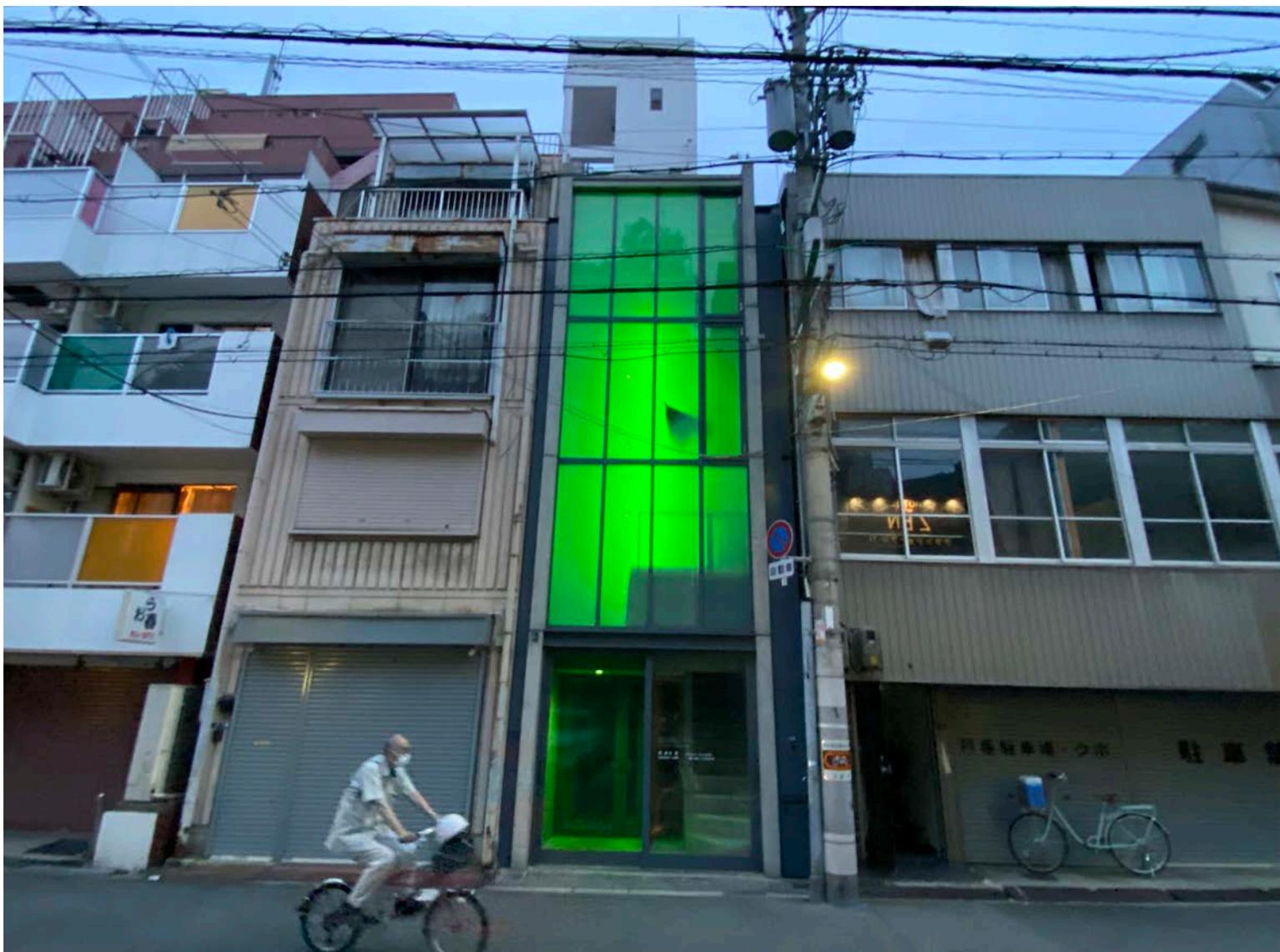
ゆっくり点滅する緑の光がすりガラスを透過し、壁に突き刺さった紙飛行機に勇気と加速度を与えてほしい、そんなことを考えて緑のライトインスタレーション作品を作りました。

通常、街から見る外観のすりガラスは内部の気配を一切感じることができない拒絶的な壁です。でも、夜になって緑の光が強く感じられるようになると、光がゆっくり街に染み出して、壁が溶け始めるような錯覚を感じます。また、突き刺さった紙飛行機がすりガラスを貫通しているのがよくわかるようになります。そして、点滅により光が消えると、すりガラスは再び拒絶的な壁に戻ります。その繰り返しの光のリズムが、日本橋の街並みに新しい息吹を与え、作品は街へ飛び出しました。



ミラーシートのサイン及び緑のフィルムを貼ったエントランスデザインは学生有志の手による。

観客は、緑のドアを開けて上階に入る。



## ●作品1：微睡

体験型インスタレーション: 郡 裕美

マテリアル: 自然光、白色テープ、ミラー

設置場所: 1階ギャラリー

### 推奨鑑賞方法:

1. 床のガイド線に従ってゆっくり歩き、壁に自分の影が映り込み、焦点があったところで立ち止まってください。
2. 自分の影をじっと見つめ、おもての車や通行人が通るたび、太陽が雲に隠れるたびに、自分の影の色と形が変化するのを確認し、自分の輪郭が揺さぶられる感覚を楽しんでください。

**説明:**人は自分で自分の姿を見ることはできません。自分の影を通してのみ、自分の像を確認できます。間口が狭く奥行き深いギャラリー日本橋の家の建築によって生み出された効果で、鑑賞者が突き当りの白い壁に近づくと影が映りこ見ます。鑑賞者は映った影を見ることで、自分の輪郭が曖昧に世界と溶け合っていること、また、街の揺らぎによって変化する光に呼応して自分の形が変化することを感じる作品を作りました。

また、床に窓を想起させる鏡をおき、そこに影の像を転写することを考えました。常に変化する自身の影が反射と変形を続けながら、別の場所へトランスポートされることを示唆します。



## ●作品2：壁の向こうへ、

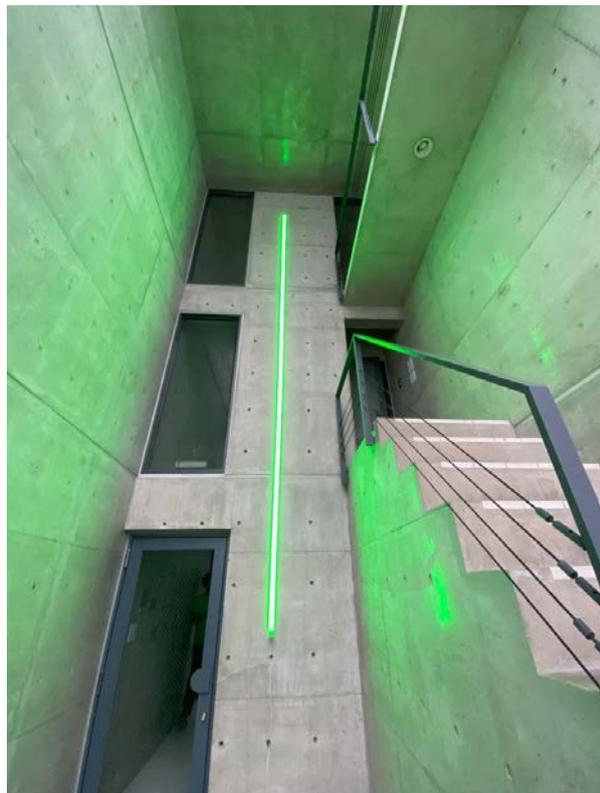
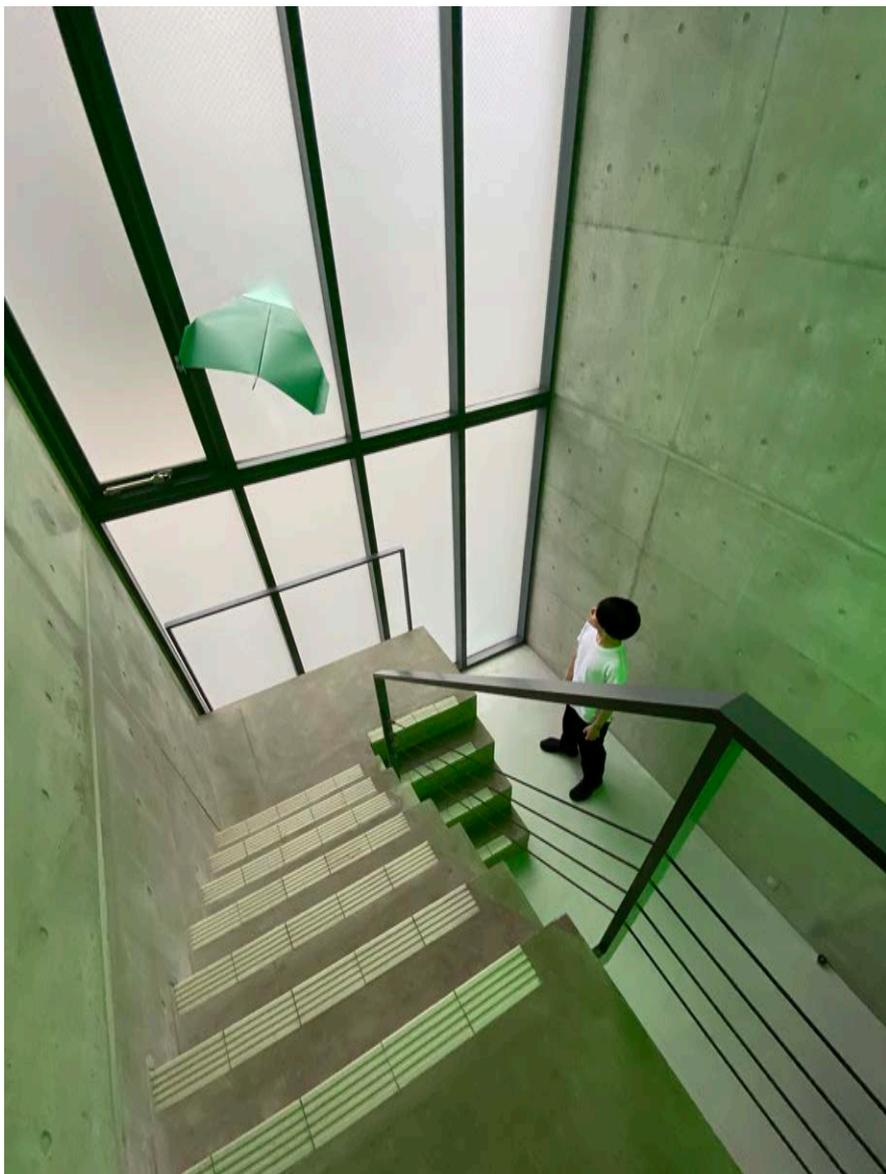
インスタレーション：郡裕美

マテリアル：特殊紙、ミックスメディア、LED、アルミ、木材

設置場所：2階ギャラリー大

説明文：

紙飛行機は弱いものですが、誰でも簡単に作れます。外と繋がりたいという強い意思があれば、誰でも簡単に境界を突破できるというメッセージを込めて、今回、すりガラスの壁に紙飛行機を貫通させる作品を作りました。ゆっくり点滅する緑の光が壁を貫通し、紙飛行機は緑のひかりに乗って、加速度をまして壁の向こうへ飛び立ちます。





## ●作品4：MON/Portable Infinity Device

ミュージアムボード

光の彫刻: 郡 裕美

マテリアル: アクリル、

設置場所: 1階ギャラリー

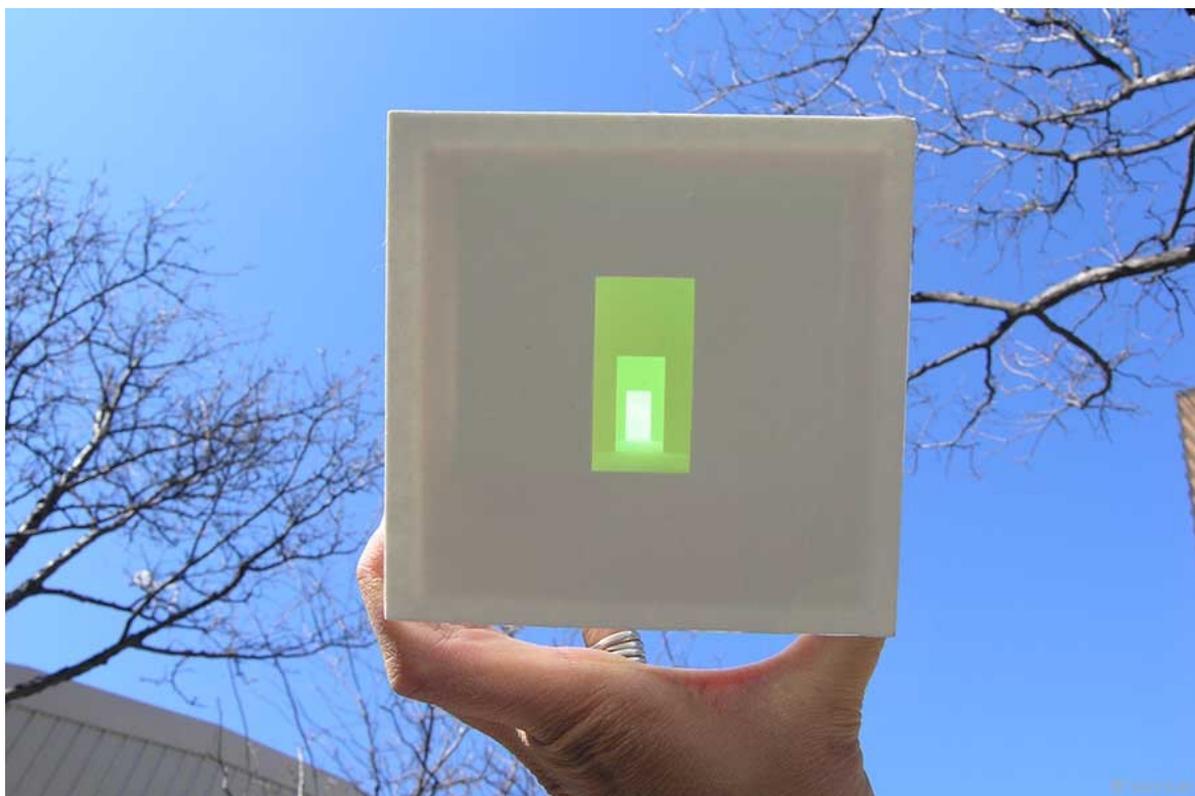
説明文:

これは、持ち運びできる携帯無限装置です。

小さな箱の中に、光と陰で無限の空間を作りました。

光の門を覗き込んでください。

どんなに小さな場所にでも無限の広がりが生まれます。



## ●作品5： Matsukaze

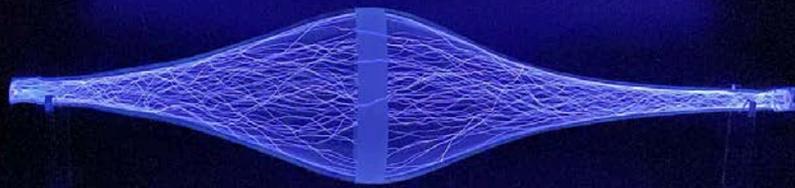
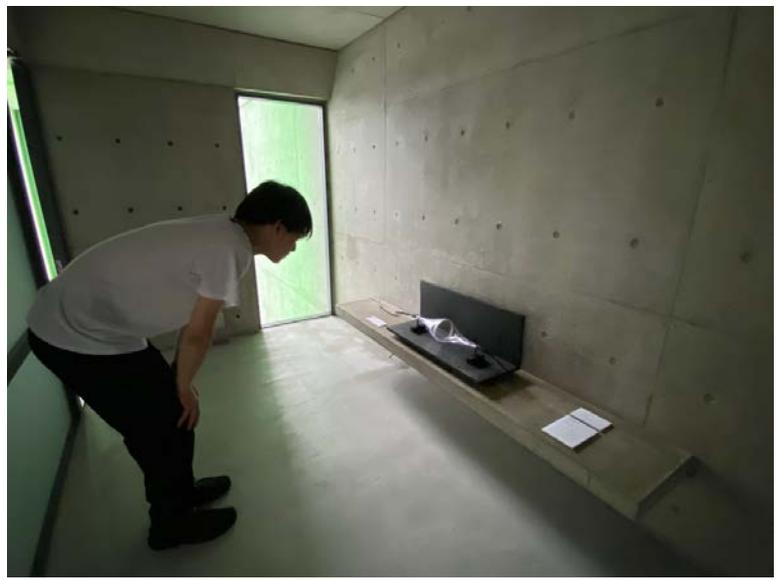
作品：郡裕美

マテリアル：手吹きガラス、電極、キセノンガス、  
トランスフォーマー

設置場所：3階 ギャラリー手前

説明文：

ニューヨークのUrban Glass に招待作家として滞在した折に作った作品です。ガラスの中の空気は、一度そこに閉じ込められると、そこに別世界を生み出します。ガラスが壊れない限りその世界は永遠に続きます。透明で見えない壁の向こうにある別世界に心を馳せる感じが好きです。お茶席で、鉄瓶にお湯がたぎる音を松風と言います。その音に似ていることからこの作品をMatsukazeと命名しました。ガラスの中の青い光の筋を見ながら、遠い松林の間を抜ける風を想像する、そんな心の旅を楽しんでください。



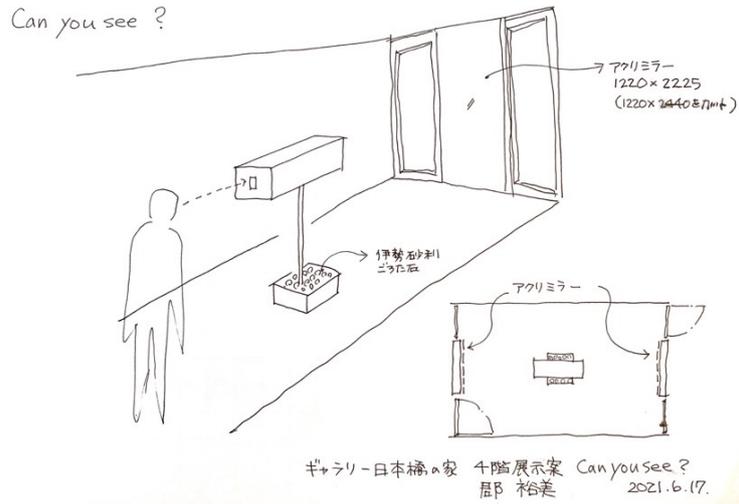
## ●作品6： Can you see? 見える？

インスタレーション: 郡 裕美

マテリアル: アクリル、ミュージアムボード砂利、アクリミラー

設置場所: 4階 ギャラリー手前

小さな空間の中に光と影を使って、無限の広がりを作り出しました。光の無限、影の無限 2つが一つの作品に埋め込まれています。光の向こうにある世界、影の向こうにある世界、それぞれを凝視する時、心はどんな旅をはじめましょう。「見ようとする事」を通して、光と闇の狭間にある無限の広がりを見直してみました。



ドアの向こう側に広がるのは光の無限  
ドアの向こう側に広がるのは闇の無限、  
その二つは、私の見えない世界のどこかでつながっている。  
部屋の両側の合わせ鏡の中で、光と闇の無限が永遠に繰り返される。



## ●作品7：見えない壁

インスタレーション: 郡 裕美

マテリアル: ウール

設置場所: 4階 ギャラリー奥

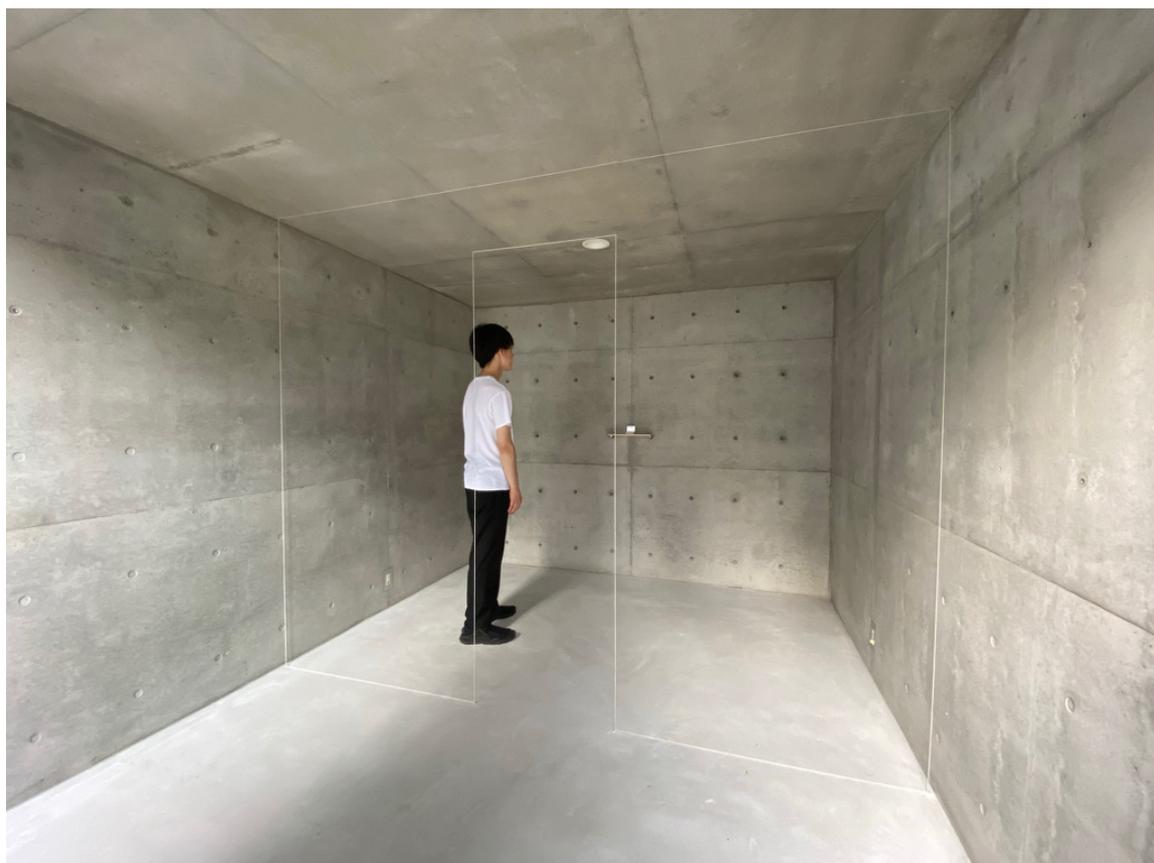
説明文:

気がつく私たちの周りには超えてはいけない見えない壁がたくさんできています。でも、しばらくするとそれに慣れてしまい、私たちはそこに壁があったことさえいつの間にか忘れてしまい、壁の向こうに思いをはせることをしなくなっています。

この作品は、鑑賞者が見えない壁を発見し、それを超える作品です。そこにあるけど見えにくくなっている壁をまず発見しなければ、壁の向こうへ行くことさえできないというメッセージを込めて作品を作りました。



見えない壁 スケッチ



## ●作品8：聞こえる？（ワークショップ）

タイトル：聞こえる？

ワークショップ：郡 裕美

マテリアル：紙コップ・

設置場所：全体 ギャラリー(ワークショップ時に行う)

説明文：

昨年からのパンデミックで、オンライン会議やZOOM飲み会なども日常的になり、人との新しい方が生まれてきました。でも、それとは裏腹に、自分の近くにいる友人とは遠い遠い距離が生まれました。糸電話というプリミティブな装置を使って、友人の声の振動を体で感じて見ませんか？このワークショップを通じて、参加者が日本橋の建築空間の繋がり方について再考するきっかけになることも考えました。

また、安藤忠雄氏の建築



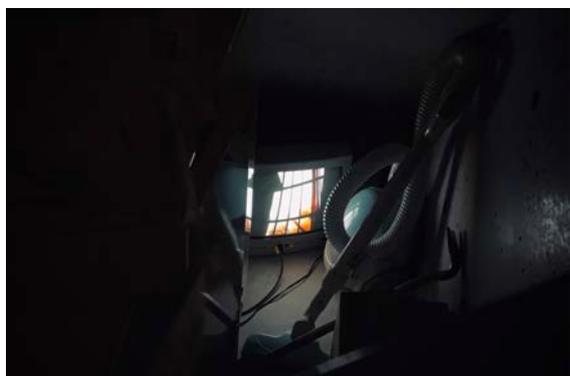
# LSDL空間実験

LDSLは、研究室名 Living Space Design Laboratory の頭文字をとったものです。展覧会開催にあたって大阪工業大学 R&D工学部 空間デザイン学科 郡裕美研究室の有志グループ LDSLは、空間実験を重ねました。これらの写真は、学生がチャレンジした様々な実験風景の記録です。今回、その中で生まれた学生のアーティストユニットmukuとakihitoが、作品展示をします。



## ●作品9：夢のあとさき

インスタレーション：今岡嵩、薮田雅也  
設置場所：2階 ギャラリー中



## ●作品10：残光

インスタレーション：muku（中村翔太、嶋田陸）  
映像：muku  
設置場所：3階 階段下倉庫



## ●作品11：夢のあとさき

インスタレーション：荻原明仁  
サウンド：荻原明仁  
設置場所：2階 ギャラリー奥